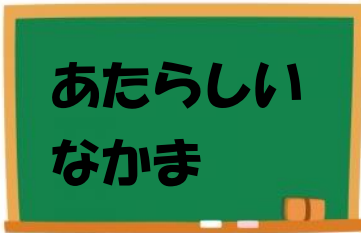




オリーブ通信

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

2019年
3月号
2019.3.9.発行
第209号



新しい仲間が続々と増えて、写真を撮るのが間に合わない!引き続き掲載していきますので、ご了承ください。



クワン フォング トウエン
(ベトナム)



トン ティ トウ ハ
(ベトナム)



グエン ティ タイン ハン
(ベトナム)



チャン レー フン
(ベトナム)



史 成美 (中国)



王 嬌 (中国)

中川先生のへんてこ日本語

104

なぜうまくコミュニケーションできないの？



日本を訪れる外国人観光客は、年々増加の一途を辿っている。中にはかなりの程度日本語の話せる人もいる。日本語能力試験のN1、N2に合格しているのに、なぜか日本人とうまくコミュニケーションできない。それはまだスイッチが母国仕様のままで、日本仕様になっていないからだと思う。こんな調査がある。留学生やビジネスマンなど、長期間日本に滞在している人に、来日直後と来日から1年、2年経過してからとで、もっとも変化したコミュニケーション・スタイルは何かと問うたところ、相槌の多用、頻繁なお辞儀、「すみません」の多用などの答えが返ってきた。つまり日本に長い間滞在すると、こうしたコミュニケーション・スタイルを自然と身に付けるようになり、日本人との円滑なコミュニケーションが可能になるといふ。文法や語彙の能力がいかに優れていても、日本人と真の友情関係が築けなかったり、信頼関係が結ばなかったりするのには、そのためである。

一方で日本人が海外へ出かけると、日本語を話してなくてもすぐに日本人だとバレてしまう。それはやはり日本仕様のまま海外モードにスイッチが切り替わっていないためである。

観光客を見ると、日本人ではないことがすぐ分かる。そんな外国人に対して、日本モードに切り替えるといいたくはないが、スイッチを切り替えないと、日本では使えませんよと教えてやりたいこともある。

少し前までは、日本製の炊飯器やトイレの便座などを買って求める観光客が多かった。そんな電気製品も電圧を変えたり、プラグを変換したりしなければ母国では使えない。コミュニケーション・スタイルも日本仕様に変換すると、日本滞在がもっとスタイリッシュに楽しくなるだろう。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

第15回 びわこ日本語ネットワーク

外国人による 日本語スピーチ大会

2019年2月17日 栗東市・栗東芸術文化会館 さくら

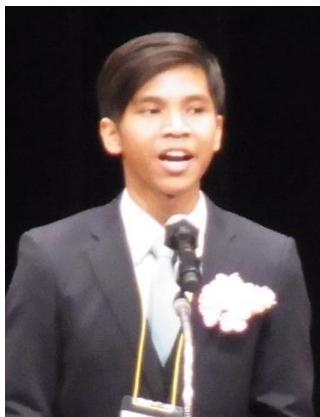
100名ちかい応募者の中から選ばれた15名の発表者、オリーブからは陶福東さんが発表しました。

前日のオリーブでのリハーサルでは少し緊張気味の陶さんでしたが、本番はとても落ち着いていて、りっぱな発表でした。



陶 福東 (中国) 「病院の一日」

仕事を一日休んで、妻を病院に連れていった。受付の人は、誰にも親切に対応してくれ、専門用語のわからない外国人にはやさしい日本語で説明してくれる。診察が終わって2階に上がると、小学生の絵が飾ってあり、病気の人にも絵を眺めて心が癒される。ここには病気を治す本来の役割だけでなく、あたたかい気持ちがある。そういう日本のやさしさは、たとえば、ワサビを食べた刺激に驚いた人が、しばらく経つと刺激を忘れるけど、また食べて思い出すように、生活の中で何度も感じることができる。



ハルトノ (インドネシア) 「雨を眺めて」

最優秀賞 滋賀県知事賞

日本に来て、日本には雨の名前がたくさんあることを知った。インドネシアの雨は、日本と違いとても強く痛い！だから雨が降り出すと、外に出ず雨宿りしてのんびりといろんなことを考えて過ごす。インドネシア人は世界で一番歩くのが遅いと言われるが、赤道直下の国なので、体力を温存するためにゆっくり歩くと幼いころから言われている。ゆっくりと心と身体を休めることがインドネシア人の笑顔を作る。ところが日本に来ると「早く！急いで！」と言われることが多い。せっかく日本には美しい雨のことばがあるのだから、もう少しスピードを落として、ゆっくりと雨を眺めて過ごしませんか？



朱 琳 (中国) 「食への魅惑 生きるためから楽しみへ」

優秀賞 栗東市長賞

日本に来る前は食べ物に関心がなく、任務のように食事していた。しかし、日本に来て食べた、焼き餃子、麻婆豆腐は中国のものとは違ったが、おいしかった。その他、エビフライ、ドリアなど、あまりにおいしくて、皇帝料理みたい！と感動した。また、食べる前に「いただきます」と言う慣習も知った。両親にも日本料理をぜひ紹介したい。日本料理を知ったことは、さまざまな料理の旅に私を誘ってくれた。



尾崎 シルビア 幸恵 (ブラジル) 「子どもたちの未来のために」

優秀賞 びわこネットワーク賞

私は日系三世ブラジル人で、10年前に家族で日本に来た。子どもは最初ブラジル人学校に通いそれから日本の保育園に通って日本語を話せるようになった。しかし、周囲にはブラジル人学校だけに通い日本語を話せない子どもや、日本の学校に通いブラジル語を話せない子どもも多い。だから、私は、いつか日本語、ブラジル語の両方を教える学童保育を作りたい。目標を実現するために、もっと日本語がうまくなりたい。



スリスティア ウィナンティ(インドネシア) 「郷に入れば郷に従え」

(公財)滋賀県国際協会会長賞

大阪で研修を受け滋賀の仕事場に来たら、思ったより田舎だったり、仕事は大変で毎日疲れたり、いっしょに働くパートのおばちゃんたちの江州弁が分からなかったりで、予想した日本とはちがった。でも、おばちゃんたちは実習生を子どものようにかわいがってくれ、だんだんと日本にも江州弁にも慣れていった。「郷に入れば郷に従え」という言葉を実感し、日本が好きになっていった。



フィン クアン チュオン(ベトナム) 「通訳になりたいーベトナムと日本のかけ橋として」
奨励賞

ベトナムで大学を卒業したがうまく就職できなかった時、日本の実習生制度を知り応募し、日本に来て1年10か月。日本語は難しかったが、勉強するにつれ、通訳になりたいという夢が膨らんできた。

日本語の勉強は終わりが無いが、がんばって通訳になるという夢を実現したい。

ここ数年、スピーチ大会を聞いてきた中で、今年は、発表者の日本での楽しい日常生活のエピソードの多かったことが印象に残りました。「日本のおいしい食べ物」「自転車で友だちとビワイチ(琵琶湖一周)に挑戦」「日本の師匠から竹細工を教えてもらって竹灯籠作りに挑戦」など、日本文化や滋賀県の自然に触れて楽しんでいる話に心が和みました。

一方で、「本国で大学を出たけれど思うように就職できなくて日本への実習生に応募した」「家族のために銀行からお金を借りて、もう戻れない覚悟で日本に来た」「中3で日本に来たが、最初は日本語が話せず、高校にも行けず、アルバイトもできなかった」など、発表者たちの置かれた厳しい現実への言及もありました。

4月には、「改正出入国管理法」が施行されます。私たちが教える学習者さんにも変化があるのでしょうか。日本で暮らす実習生のみなさんが少しでも充実して楽しい生活が送れるよう、生活の支援、日本語の習得などがもう少し公的に保障されたいいなあと願っています。

スピーチ大会の事前準備、当日の要員として参加された多数のかたがた、本当にお疲れさまでした。



よし笛の演奏や手品の披露もあり、発表を待つ時間も楽しめました。





先月の活動(2月)

日本語教室 2/2 (M), 16, 23 (3回)
 まちセン運営協議会全体会 2/8(金) (田中)
 KIFA 多文化交流会 2/9(土)
 (豊田・中川・中村・恩地)
 BNN 運営委員会 2/11(月) (河村)
 日本語指導者勉強会 2/16(土)
 第15回日本語スピーチ大会 2/17(日)
 (恩地・河村・田中・後藤・吉田)

●日本語教室の(M)は定例ミーティング



今月の活動予定(3月)

日本語教室 3/2 (M), 9, 16, 30 (4回)
 3月1日(金) まちセン16周年イベント、前日準備
 (田中一)
 3月2日(土) 同上、カレー作成手伝 (田中一)
 3月15日(金) まちセン運営協議会施設部会 (田中一)
 3月31日(日) **オリーブお花見**
 11時 石山駅集合 (詳細はチラシで)

●()内は参加者、または 参加予定者。敬称略



参加人数(2月)

	2/2	2/16	2/23
生徒	33人	54人	40人
先生	20人	24人	22人



お知らせ



会員の動き(2月)

〈入会〉

〈退会〉〈休会〉〈賛助会員〉なし



映画紹介 (滋賀県国際協会おすすめ)

「アイたちの学校」

朝鮮学校の歴史と現状を描いたはじめてのドキュメンタリー

京都シネマで3/2~3/29まで上映しています。詳しい時間は京都シネマのHPで。

日本語能力検定合格おめでとう



孫兵さん (中国) N2



秦可さん (中国) N2



ゾアイン グンさん (ベトナム)



グエン ヒュ ケンさん
(ベトナム) N2



黄秀さん
(中国) N2

欠席やご本人の意向で写真のないかたもあり、お名前だけを紹介します。

チャン・ディン・タンさん (ベトナム) N3
 また、欠席が続いて合否が確認できていない方もあります。ご了承ください。

合格者へのアンケートの結果

- ①一番勉強したのは、語彙・読解・リスニング
- ②合格するために役に立ったのは、
 - *たくさん単語を覚えたこと
 - *ラジオをよく聞いたこと
 - *休みの日にたくさん勉強したこと
 - *オリーブをやすまなかったこと

(編集後記) もはや止めがたい勢いで広がっている「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」。国語審議会が認める日も近い？先日京都の繁華街を歩いていると、焼肉屋の店頭で若い店員が「いかがすカー 3000円で食べられ放題ですよー」どうやら人間でなく牛向けの呼び込みのようです。

(フクイ)